

# 日本ボストン会 会報

第48号



紅葉狩り  
(六義園ライトアップ)



## 日本ボストン会会長挨拶 会長: 藤盛 紀明

2017年は日本ボストン会創立25周年にあたる。私は日本ボストン会設立に携わったので、会長としての役割の一つとして会の今後の在り方の検討をあげたい。そのために設立の経緯、会の活動を振り返ってみる。

1991年1月にボストン駐在任務を終了して帰国した。帰国前のボストン日本人会の会合で吉野会長（当時）から日本支部を設立するように依頼された。その間のいきさつは当会会報1号（1993年4月30日）の初代吉野会長の寄稿に詳細に記されている。ニューイングランドには江戸時代以来の日本の美術品が多数存在する。それらを維持・保存する資金を日本で確保するために日本支部を結成して欲しいとする依頼であった。ボストン日本人会の日本支部ではなく独立した「日本ボストン会」として設立することを提案し了解されたので、帰国後早速作業を始めた。

会の設立活動を行ったのは私の他に、当時外務省アジア局の米田隆一氏、NTTの神部信幸氏、住商エレクトロニクスの土居陽夫氏であった。当時ボストン日本人会の事務局はジャメッツ登美子さんと彼女からの幾つかのFAXが今も私の手元に残っている。現在日本ボストン会に残っている



るのは土居氏と私だけである。会の初期の名簿を見ても現在は会でお見受けしない方が多い。会のメンバーの入れ替えも多くあったことが認識される。

日本ボストン会の特徴は会員が運営する会が多数提案され活発に活動していることである。当初最も活躍したのは「レディース会」でボストンの「ニューイングランド音楽院」「パークリー音楽大学」卒業生を迎えて度々演奏会を開催した。第1回は1993年6月、現開成中学・高校校長の柳

沢幸雄氏の講演と松岡英子さんのピアノ演奏だった。現在その流れは「音楽の会」「歌う会」に引き継がれている。「お花見の会」は、当初ボストンからの参加者も多数あり現地との交流に大いに貢献した。「歴史を飲もう会」は日本に残るニューイングランドゆかりの場所を訪問する会として始まった。東日本大震災で流された岡倉天心設計の五浦六角堂訪問とアンコウ鍋会食の一泊二日の旅は記憶が鮮明である。この会も「美術の会」と合併して「美術と歴史の会」として活動している。「美術の会」も名古屋ボストン美術館訪問など多彩な活動を続けてきた。「ゴルフの会」も古い会で第1回は1995年5月に千葉県泉カントリー倶楽部で開催された。その後開催コースは色々選択されたが、現在は幹事山崎恒氏のご努力で川崎国際生田緑地ゴルフ場に定着している。「ハイキングの会」も古くからの会で関東近郊を数多く散策、その後「山の会」も設けられたが、今は合併して「ハイキングの会・山の会」となっている。会でもっとも活躍した活動は俣野善彦氏の会報である。会報は会の歴史を良く物語るものであったが、現在は電子会報として土居氏に引き継がれている。

他にも多くの活動があるが、担当幹事の高齢化に伴い、幾つかの会は合併となり、会員の高齢化に伴い参加者の減少も続いている。会は当初のメンバーと共に老いていくのか、あるいは何らかの活性化策を行うのか、その節目に差し掛かっていると感ずる。

## 寄稿：ナンタケットバスケット 八代江津子

捕鯨の基地として一時はドバイのように栄えた小さな島ナンタケット。その小さな島で生まれたバスケット、ナンタケットバスケットをご紹介します。

ナンタケットバスケットは、捕鯨船の中でクジラの油を入れる樽を作るクーパー（樽職人）によって作られました。その面影を背負ったバスケットの部位の名称は樽と同じものが多く、素材もオークを主とし、フィリピンなど南アジアで出会った籐で作られ、底板を有して居ます。



ドバイのような裕福な島で培われたバスケットは年を追うごとに繊細になり、素材は高級になりハイソサエティの合言葉のような存在になっていきます。バスケットを持っていることで、友人が増えるという意味でフレンドシップバスケットとも呼ばれています。現

## NEXT EVENTS 奮ってご参加ください

### お花見の会

日時: 4月1日(土)  
集合: 午前10時50分  
江古川橋駅改札  
江戸川公園から  
芭蕉庵、椿山荘を周り  
懇親会場へ  
費用: 懇親会 5,500円程度  
詳細: [HP](#)  
申込・問合せ: [E](#)

### ゴルフの会

日時: 4月27日(木)  
午前8時30分スタート  
集合: 8時20分 1番ティー  
場所: 川崎国際生田緑地  
ゴルフ場  
会費: 4,000円(賞品代及び  
パーティー代)  
詳細: [HP](#)  
申込・問合せ: [E](#)

### 音楽の会

日時: 5月28日(日)  
午後2時30分開演  
会場: 関幹事宅(田園調布)  
出演: 戸口純さん(ピアニスト  
で作曲家、ニューイン  
グランド音楽院やバー  
クレー音楽院で研鑽、  
日米欧で演奏活動。)  
詳細: [HP](#)  
申込・問合せ: [E](#)

在では作家物と呼ばれるものは20万円から50万円を超えバスケットとは思えない高価さです。

私は23年前にこのバスケットに出会い、5年をかけ弟子入りを果たしました。現在は作家としてバスケットを作り続けています。しかし悲しいことですがナンタケットバスケット作家は絶滅危惧種指定状態が続いています。どの伝統技術にも共通している状況



がここナンタケットでも現状として存在します。バスケット職人のギルド（組合のようなもの）が存在しないのも一因です。一人一人が独立し系統だった保存ができていません。

もしかしたら外から“だから”、出来ることがあるかもしれない。と考え始めたのが1999年でした。

日本でバスケット作りをお稽古事として成立するように材料などを外注しました。ナンタケットバスケットは、細かい材料一つ一つを自ら作ります。でもそれでは、絶滅が目の前に見えてしまいます。私はバックという存在を手作りできる「お稽古」としてのバスケット作りの方法を作ろうと考えました。ナンタケットバスケットとして。また、お稽古を取り仕切る先生方へは女性として自立できるようなシステム作りを考えたいと思いました。

日本で発展していくナンタケットバスケットに当初ナンタケットの伝統を大切にしてきた人々は苦虫を噛み潰したような表情を変えませんでした。しかし年を重ね、それが伝統に則ったものであること、そして新しい発展も島の意を汲んでのことであるという信頼を得ることができ、昨年ナンタケットバスケット美術館では『Faraway Islands-Nantucket and Japan---日本で作られたナンタケットバスケット展』が開かれました。日本で新しいスタイルをまとったバスケットはナンタケットでも新風を作りました。



現在では多くの日本人がナンタケットを訪れ、バスケット文化に活気が戻りました。3年前まではほとんど見られなかったバスケットを持つご婦人方ですが今は新しいスタイルに若い人のバスケット姿が見られるようになりました。新しいナンタケットバスケット文

## NEXT EVENTS

### 奮ってご参加ください

#### 美術と歴史の会

日時: 5月10日(水)・11日(木)

集合: 5月10日午前20分

JR奈良駅改札付近

テーマ:「フェノロサの見た  
奈良の美」

当時廃仏毀釈運動があり、寺は荒れ仏教美術が廃棄されたり海外に多数の名品が流失したりしていました。それを懸念したフェノロサは奈良の財宝を守れと講演で訴えました。

奈良国立博物館、大仏殿、法隆寺、中宮寺、法輪寺、薬師寺、唐招提寺などを二日間で回ります。

フェノロサ研究の第一人者である山口静一会員、京都在住で仏教研究者のマイク・ジャメンツ会員と登三子夫人さらに地元奈良在住の吉田礼子会員にガイド役になっていただきます。

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [E](#)

#### 紅葉狩りの会&ハイキング・山の会共催

日時:10月29日(日)-30日(月)

内容: アプトの道ハイキング  
と霧積温泉散策  
(詳細未定)

詳細: [HP](#) [HP](#)

申込・問合せ: [E](#)

化が始まろうとしています。

ボストンを訪れる時、ぜひ「白鯨の島」ナンタケットへも足を伸ばしてみてください。

編集者注：筆者の八代江津子さんは日本ナンタケットバスケット協会とNew England Nantucket Basket Associationの会長をされており、著書に「時を編むーナンタケットバスケット」（集英社）があります。

## 寄稿：写真あれこれ

### 篠崎史朗

1969年末会社から米国ニューヨークへ転勤を命じられた。ニクソン大統領のウォーターゲイト事件が起きる少し前である。

そして丁度その頃、当時世界最大のカメラ関連メーカーであるイーストマン・コダック社が、インステマテックと称する、後にバカチョンカメラと言われるようになる使い捨てカメラを発売した。安価で、撮り終えた後、代理店に持ち込むと、数日で現像、プリントされ戻ってくる。色調が明るく、当時日本からの出張者が、持参した日本製カメラで撮り、帰国後に送ってくれるプリントと比較しても遥かに優れている。この使い捨てカメラが、約5年間の同地勤務中の、家族の時折の様子を写し止める手立てとなって、可成りの枚数のプリントが現在でも我が家のアルバムに残っている。

5年の間に休暇などを利用し、主として東部だが、可成りの地に旅をする機会に恵まれたが、秋のニューイングランド、夏のメイン州海岸が気に入り、特にニューイングランドの秋は毎年家族で出かけたものである。

1974年12月東京に帰任。ニューヨークでの仕事は石油製品の対日輸出であったが、本社での新任務は海外の製鋼会社向け資材の輸出と言う大分趣の異なる仕事となった。然も日本から近い東南アジアはもとより、北米や西欧なども先発他社がとうに抑える状況にあり、こちらとしては止むを得ず、未知に近いソ連、東欧、中南米などに市場を求めることとなった。苦労はあったが、また時間もかかったが、幸いこれになんとか成功し、その後の安定した輸出業務の基礎を一応築くことができた。

海外取引先所在の国にはほぼ全ての国に自社の駐在員事務所があり、本社から派遣の駐在員も居るが、取引先との意思疎通のためには年間数度に及ぶ日本からの出張訪問がどうしても欠かせない。

ソ連、東欧は日本からの時差は無論あるが、飛行時間は直接行けばそれ程でもない。しかし共産圏飛行機の整備に関する不安から、本社側は極力西欧航空機の利用を指示し、その結果東欧訪問の場合にはオーストリアのウィーンを基地としてオーストリア航空で目的地と往復する方式が普通となり出張に時間がかかり、ウィーン滞在の機会が増すこととなった。

東欧は観光資源豊かな地域で、当然写真の被写体豊富だが、仕事での出張となると、サイズの大きいカメラなど持ち込めず、結局日本製の「バカチョンカメラ」程度をカバンに入れ、シャッターを押すのも仕事の上での必要とされる記録を撮る際のみと言うことになる。

機会があったら何時か、将来、大型ではないにしろまともなカメラを持参し、ウィーンはもとよりスイスや東欧各地を撮影旅行して歩きたいものである。

スイスにはある思い出がある。1985年頃か、ハーバードが中高年マネージャーを対象としたビジネス・スクールをスイスのレマン湖畔の別荘地内ホテルを教室にして開き、会社からこれに参加するように指示され、貴重な経験をすることとなった。参加者は世界各地から60名で、殆どが50歳近くの中小企業経営者。日本人は自分唯一で期間約3ヶ月。毎週分厚い英文資料を配布され、翌日使用分を毎日夜中の2・3時頃まで勉強しないと授業に追いつかない - 若い頃体験した大学受験勉強以上である。しかし自室の窓から眼科に見下ろすレマン湖と彼方に望むマッターホルンの勇姿は、週末を共に楽しんだ多くの参加者の好誼とともに終生忘れられぬ思い出である。このスクールの卒業証書は現在でも自宅の壁に飾ってある。尚、このスクール参加が後年日本ボストン会に入会する縁にもなった。

60歳に近くなり老後の生活を考えるようになって、日本写真会と称する会に入会した。もう少し腰を入れて写真に取り組みたいと思うに至ったからである。この会は株式会社資生堂の創業者福原信三が第一次世界大戦後1924年に創設し現在に至る、日本でもっとも歴史の古いアマチュア写真団体である。現在の会員数はおおよそ130名で年間を通し活発な活動を続けている。会の精神は「光とその諧調」と表現され主要被写体は自然風景である。年に一度全会員参加の展覧会が行われるので、当ボストン会の方々にも今後は是非見て頂きたいと思う次第である。

筆者は現在同会の同人で使用機材はニコンを中心とする日本製である。

## ワーキンググループ活動報告

### 総会

#### 近藤 宣之(総会司会担当)

2016年の日本ボストン会総会は、11月18日午後6時30分より、8時30分まで、今年もNEC三田倶楽部で開催されました。

出席者は33名と例年よりは少なかったですが、元会長の\*法眼 健作\*さんのお話しや各グループからの活動報告は楽しいものでした。

なお、次回総会から開始時間が30分繰り上がり、午後6時から午後8時までになります。



### WG活動 (2016年秋～2017年春)

2016年 (平成28年)

11月 18日

総会

11月 21日

秋季ゴルフコンペ (コースコローズで中止)

11月 27日

紅葉狩りの会 (六義園ライトアップ)

2017年 (平成29年)

1月 16日

ハイキングと山の会 (元祖山手七福神めぐり)

3月 12日

伝統芸能の会 (通し狂言「伊賀越道中双六」)

## 紅葉狩りの会

### 藤盛富美子

11月27日（日）紅葉狩りに22名、会食に21名参加で、六義園のライトアップされた紅葉を楽しみました。お天気が心配されましたが大雨にもならずほっといたしました。ライトアップの紅葉狩りは初めての試みでした。あいにくの小雨模様で、年配の参加者が多い会なので、暗い中は足元に気を配らなければならないということに気が付きました。近くのトラットリアイ



タリアでの会食は大いに盛り上がり楽しく過ごせたと思います。ご参加くださった皆様にお礼申し上げます。

いつもご夫妻で参加して下さって楽しんでくださった森啓さまが 12月末に急逝されたことをとても悲しく残念に思います。



## 新春元祖山手七福神めぐり

### 中埜岩男

新春七草の日に江戸市中から目黒不動尊への参詣路を辿る山手七福神を18名でめぐりました。白金高輪駅を出発し、加藤清正公ゆかりの覚林寺でご本尊と毘沙門天に参拝。次は江戸初期建立の黄檗宗の瑞聖寺。立派なご本尊と大きな布袋尊を参拝。八朔のお土産を頂く。次は妙円寺。本堂横のお堂に上がり、寿老人と福祿寿に参拝。境内は参拝客で混雑。目黒駅から篠崎さんは別行動。

目黒駅近くの行人坂の急坂を下ったところに大円寺。本堂大黒天に参拝。重文の釈迦如来立像にも参拝。西運(八百屋お七の恋人吉三)がお七の供養のため行人坂石畳を修復した石碑と江戸時代の「見ざる・聞かざる・言わざる」の三猿を刻んだ庚申塔三基が目についた。

近くの雅叙園でトイレ休憩。風格のあるトイレに吃驚。

次は太鼓橋を渡った先にある蟠龍寺。岩窟とお堂それぞれに弁天像に参拝。石造りの弁天様は岩窟の奥に安置されていたが、岩窟の崩落で入り口近くに再安置とか。

最後は家光公が庇護した瀧泉寺。ご本尊の目黒不動を参拝。女坂にある役の行者の銅像は足腰にご利益あり。水掛不動も有名。最後の最後に恵比寿様にお参り。これで七福神めぐり終了。



恵比寿ビヤステーションには1時半に到着。篠崎さんと合流。早速、食事会開始。藤盛さん挨拶、吉野先生の音頭で乾杯。特製の琥珀生ビールは美味しい。料理も好評。話が盛り上がったところでお開き。

天気に恵まれた楽しい七福神めぐりとなりました。



## 春季ゴルフ懇親会

### 山崎恒

2016年の秋季ゴルフ懇親会は11月25日に開催の予定でしたが二日前から非常な悪天候となり、24日には翌日のコースクローズの連絡がありました。従って私どものコンペも中止の已む無くに至りました。次回は2017年4月に開催予定です。

## 伝統芸能の会

### 吉野静子・滝沢典之

3月12日(日) 日本ボストン会伝統芸能の会 国立劇場開場50周年記念歌舞伎公演  
通し狂言「伊賀越道中双六」観劇会および舞台裏見学会を開催いたしました。今回も盛況で35名の参加者が集い、藤盛会長の開会の辞に続き、独立行政法人日本芸術文化振興会の茂木理事長(日本ボストン会元会長)のご挨拶、西沢様からの演目紹介をいただきました。開演前の昼食会では和やかなご歓談の時間を過ごし、その後、観劇を堪能いたしました。

また、終演後、11名の方が舞台裏見学に参加され、日頃見ることのできない舞台裏の様子を楽しみました。「伊賀越道中双六」(伊賀上野の敵討ち)は曾我兄弟の仇討ち、赤穂浪士の討ち入りと並ぶ「日本三大仇討ち」の一つに数えられ、中村吉右衛門、中村錦之介、中村雀右衛門、尾上菊之助、中村米吉等の好演に、参加者一同、最後まで目を離せない舞台となりました。参加いただきました皆様、茂木理事長、西沢様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。また、次回皆様方にお目にかかれる日を楽しみにしています。



日本ボストン会事務局



〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6

会報の原稿を募集します。内容はボストンやニューイングランドに関連のあるものとします。ご寄稿頂ける方は、掲載についてご相談

をさせた頂きたい、事務局までご連絡ください。連絡先：